

沖縄県総合運動公園植栽管理について

沖縄県総合運動公園管理事務所

所長 福島 誠司

浦添運動公園の除草剤使用による問題について、当公園も同じ植栽業者をお願いしております。

こちらでも除草剤使用の確認をしたところ季節営業の4月5月開園のゆり園ならびに、5月～9月営業のレクリエーションプールにおいて、閉館期間中立ち入りを禁止して、年1回の使用が確認されました。

ゆり園は11月球根植え付け後すぐに、レクリエーションプールは3月に機械での刈り払い後、タイルの目地に散布されていきました。

現在すぐに中止させ、ゆり園は除草マルチシートで、レクリエーションプール目地には来年より海水を散布しようと考えております。

海水散布の理由は7月8月の通常営業期間に草刈作業を行うと目地の部分は平らな場所でプール際での作業となり風で草がプールに入るため、営業ができなくなります。今年は台風の影響で草や葉がプールに入ったため、休園清掃が頻繁にあり皆様にご迷惑をおかけしました。

また、タピック県総ひやごんスタジアムのサッカー場には年に15回の殺菌剤、殺虫剤などが使われておりますが、除草剤は使われておりません。

皆様にご心配をおかけし、誠に申し訳ありません。心よりお詫び申し上げます。

公園内のほかの場所には除草剤は一切使用させておりません。また、公園内はビオトープの構成になっており、丘があり、森があり、川があり芝生広場や遊具があり、公園内に降った雨は川を流れ2箇所池に流れ込みます。今年はおかげさまで水温上昇もなく鯉もテラピアも元気でした。

池の水は、もし人体に影響の出るほどの薬品が流れた場合、池が指標になってくれます。また、夏休みのわくわくクワガタ虫かご作りには、多くの皆さんに参加いただけるようになり、クワガタもブリーダーにお願いをしないと足りなくなるくらい盛況になりました。もともと園内の森に居るクワガタを増やす為に、林床整備を行い、森に光を取り入れ微生物を活発にし虫を育てて子供たちが虫取りできる環境にしようとしております。もちろん薬品は使わせません。園内の虫の床にはサッカー場の刈り込みの芝も捨てないようにお願いしています。

今年もすでに園内に雌雄とも放しました。

そして、今月17日に行われる焼き芋体験では、子ども達に集めてもらった落ち葉を使って芋を焼きます。実は台風倒木、伐採木などを秋の寒くなってくる時期にキャンプセンターに集めると、害虫が寒いのでその集めた倒木に卵を産みます。それを焼いて害虫駆除をする昔からのやり方を行っております。以前参加された頭のいいお父さんが、子ども達に枯葉を集めさせて掃除させて芋を焼く一石二鳥ですねと言われていましたが、害虫駆除も併せると一石三鳥です。歌にある本来の落ち葉炊きの目的のひとつです。

そうすることにより、少しでも害虫を減らし殺虫剤の散布を減らすこと、子ども達の体験の機会を増やすことを目的としております。

そういった事業展開の中、今回このような除草剤散布が行われていたことに対しては深く反省し、今後この様なことがないように、管理監督したいと思います。